

令和6年度 事後評価シート

【事務事業シート】

1	当初	事項	データ駆動型施設野菜栽培実証事業費						予算主管課	農産園芸課
	事業概要	県内で冬から春に栽培されている施設野菜品目のうち、イチゴ・きゅうり・トマトを対象に、低コスト環境計測機器の製作、検証及び製作講習を行うとともに、得られたデータの活用手法を確立し、栽培管理にフィードバックすることで、儲かる農業を実現する。						始期	2024	
	KPI	モデル農家の収量増加率						終期	2026	
	KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
	実績値	%	目標値	%	目標値	4 %	目標値	8 %	目標値	12 %
	ストック/フロー	%	実績値	%	実績値	9.4 %	実績値	%	実績値	%
コスト	フロー	達成率	%	達成率	235 %	達成率	%	達成率	%	
		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	1,037 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
		決算額	千円	決算額	841 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年度	要因分析	<p style="margin: 0;">要因</p> <p style="margin: 0;">総括</p>								
	見直し方向性	維持	<p style="margin: 0;">高温対策に関する指導を強化し夏季の育苗管理を徹底するとともに、モデル農家が環境の変化に応じた柔軟な管理技術が習得できるよう研修内容を充実させることで、さらなる成果向上につなげる。</p>							

2	当初	事項	ドローン防除農業適用拡大普及事業費						予算主管課	農産園芸課
	事業概要	本県特有の急傾斜樹園地での省力化につながるドローン防除の普及のため、利用可能な農業の適用拡大及び被災園地の早期成園化に向けたドローンの高度利用や実演セミナーによる推進を図る。						始期	2022	
	KPI	ドローン防除適用農薬数						終期	2027	
	KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
	実績値	剤	目標値	12 剤	目標値	16 剤	目標値	18 剤	目標値	20 剤
	ストック/フロー	%	実績値	14 剤	実績値	21 剤	実績値	剤	実績値	剤
コスト	ストック	達成率	116.7 %	達成率	131.3 %	達成率	%	達成率	%	
		最終現計 予算額	2,300 千円	最終現計 予算額	1,214 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
		決算額	920 千円	決算額	763 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年度	要因分析	<p style="margin: 0;">要因</p> <p style="margin: 0;">総括</p>								
	見直し方向性	維持	<p style="margin: 0;">6年度のKPIの実績は想定を超えた成果が出ており、7年度も現状の適用拡大状況を踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法の見直しは想定していない。</p>							

3	当初	事項	かんきつせん定技術習得システム開発費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	新規就農者のせん定技術指導を効率的に行うため、デジタル技術を活用した樹体情報の可視化とせん定シミュレータの開発に取り組む。								始期	
										終期	
	KPI	せん定技術習得システムに関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	60 %	目標値	100 %	目標値	0 %	目標値	0 %
		実績値	30 %	実績値	60 %	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック/フロー	ストック	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
	コスト			最終現計 予算額	2,100 千円	最終現計 予算額	1,890 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円
				決算額	1,778 千円	決算額	1,654 千円	決算額	千円	決算額	千円
6 年 度	要因分析	<p>要因</p> <p>総括 「樹体情報の可視化とせん定シミュレーションの開発」について計画的に進捗させることができた。</p>									
	見直し方向性	廃止									

4	当初	事項	キウイフルーツ花粉生産技術高度化試験研究費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	キウイフルーツ優良花粉を生産する体制が国内で初めて整ったことから、収穫作業の分散化や花粉収量増大に向けた課題解決に取り組む。								始期	
										終期	
	KPI	キウイフルーツ花粉生産量									
		KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	0.2 kg	目標値	4 kg	目標値	0 kg	目標値	0 kg
		実績値	kg	実績値	1.9 kg	実績値	2.7 kg	実績値	kg	実績値	kg
		ストック/フロー	フロー	達成率	190 %	達成率	67.5 %	達成率	%	達成率	%
	コスト			最終現計 予算額	1,200 千円	最終現計 予算額	1,101 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円
				決算額	1,048 千円	決算額	1,086 千円	決算額	千円	決算額	千円
6 年 度	要因分析	<p>要因 凍害等により樹冠拡大が予定より遅れており、令和6年度のキウイフルーツ花粉生産量が目標より下回った。今後は樹冠拡大を図るとともに、本試験で開発した収量増加等の技術について、技術移転を行う。</p> <p>総括 本試験で開発した収量増加等の技術について、技術移転を行う。</p>									
	見直し方向性	廃止									

5	当初	事項	米麦スマート農業技術開発・普及促進事業費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	農業現場での労働力不足を解消し、省力化・効率化を一層図るため、米麦二毛作体系（ひめの凧+はだか麦）における、スマート農業体系の総合実証を行い、実証成果を速やかに横展開し、現場実装を加速化させる。								始期	2022
										終期	2027
	K P I	スマート農業新技術開発・普及数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
		R 4 年度	目標値	2 件	目標値	6 件	目標値	6 件	目標値	6 件	
実績値		件	実績値	2 件	実績値	6 件	実績値	件	実績値	件	
ストック/フロー		ストック	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%	
コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	5,393 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円		
		決算額	千円	決算額	4,982 千円	決算額	千円	決算額	千円		
6 年度	要因分析	要因									
		総括									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績はほぼ想定どおりの成果が出ており、7年度以降も現状を踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

6	当初	事項	広域連携型農林水産研究開発事業費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	国等の提案公募型研究資金や企業等の委託資金を活用して、産学官の広域的な連携強化を図り、先端技術等による生産、流通、加工等の現場に密着した質の高い試験研究を推進する。								始期	2004
										終期	
	K P I	採択された提案公募型研究資金事業に関して、目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
		R 4 年度	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %	
実績値		85 %	実績値	98 %	実績値	96.3 %	実績値	%	実績値	%	
ストック/フロー		フロー	達成率	108.9 %	達成率	107 %	達成率	%	達成率	%	
コスト		最終現計 予算額	117,828 千円	最終現計 予算額	87,566 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円		
		決算額	62,675 千円	決算額	34,957 千円	決算額	千円	決算額	千円		
6 年度	要因分析	要因									
		総括									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績はほぼ想定どおりの成果が出ており、7年度以降も現状を踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

7	当初	事項	新活力創出試験研究プロジェクト推進事業費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	地球温暖化による生産環境の変化や担い手不足など、農林水産業の将来が不透明となる中、持続的な産地の発展を目指すべく、10年先の将来像を見据え、産地での現場実装を目標とした解決型の試験研究を展開する。								始期	2024
										終期	
	KPI	各テーマに設定した目標達成率（平均）									
		KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	%	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	85 %	実績値	%	実績値	%
ストップ/フロー		フロー	達成率	%	達成率	94.4 %	達成率	%	達成率	%	
コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	7,753 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円		
		決算額	千円	決算額	7,301 千円	決算額	千円	決算額	千円		
6年度	要因分析	<p>要因 一部の研究テーマについて未解決の課題が残っているため。</p> <p>総括</p>									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績は概ね想定どおりの成果が出ており、7年度以降は現状を踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

8	当初	事項	若手研究員研究力向上対策事業費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	県内農林水産業の持続的な発展と次世代への継承を目指した技術革新を着実に進めるため、今後の研究の中心となる若手研究員の研究力とイノベーション創出力の向上を図り、全国トップクラスの研究機能を維持・強化する。								始期	2024
										終期	2029
	KPI	農林水産研究所研究員の学会誌等論文掲載率									
		KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	%	目標値	13 %	目標値	15 %	目標値	20 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	18 %	実績値	%	実績値	%
ストップ/フロー		フロー	達成率	%	達成率	138.5 %	達成率	%	達成率	%	
コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	4,624 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円		
		決算額	千円	決算額	3,819 千円	決算額	千円	決算額	千円		
6年度	要因分析	<p>要因</p> <p>総括</p>									
	見直し方向性	維持	R4年度の現状値（11.6%）を超える実績を達成しており、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

9	12月 補正	事 項	農業試験分析機器等整備費						予算主管課	農産園芸課
	事 業 概 要	高品質で安定した農産物生産を図るため、試験研究や成果普及に必要な機器を整備する。							始期	2009
									終期	2024
	K P I	機器整備進捗率								
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度
			R 4 年 度	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	%	目標値
実績値		%	実績値	100 %	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
ストック /フロー		フロー	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
コ ス ト			最終現計 予算額	38,218 千円	最終現計 予算額	8,226 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円
			決算額	34,723 千円	決算額	7,326 千円	決算額	千円	決算額	千円
6 年 度	要 因 分 析	要因 終期延長 (R6→R7) R7目標値 100%								
		総括								
	見直し方向性	維持	試験研究に必要となる機器の導入を行い、農家所得向上等につながる試験研究を実施しており、現状の二ーズも踏まえると、今後の見直しは想定していない。							

10	当初	事 項	低コスト県産養鶏飼料開発事業費						予算主管課	畜産課
	事 業 概 要	県内養鶏農家の経営基盤の安定と生産力の強化を図るため、飼料価格の影響を受けにくい地域資源を活用した新たな県産飼料の開発に取り組む。							始期	
									終期	
	K P I	低コスト県産養鶏飼料の開発進捗率								
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度
			R 4 年 度	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	0 %	目標値
実績値		100 %	実績値	100 %	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
ストック /フロー		ストック	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
コ ス ト			最終現計 予算額	2,400 千円	最終現計 予算額	2,400 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円
			決算額	2,400 千円	決算額	2,400 千円	決算額	千円	決算額	千円
6 年 度	要 因 分 析	要因								
		総括 本試験の実施により、水産加工残渣等の養鶏飼料としての利用技術を確立し、KGI実績値の向上に寄与できた。令和7年度以降は、本技術の普及により養鶏生産基盤の強化に努めていく。								
	見直し方向性									

11	当初	事項	乳牛行動情報指標化技術確立試験費							予算主管課	畜産課
	事業概要	乳牛の飼養管理に係る労働時間の削減を図るため、乳牛の行動量で健康状態を判断する指標の作成や行動量を制御する手法の確立に取り組む。								始期	
										終期	
	K P I	目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	0 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック/フロー	フロー	達成率	%	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	17,143 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	千円	決算額	17,143 千円	決算額	千円	決算額	千円	
	6 年 度	要因分析	要因								
総括											
見直し方向性		維持	6年度のKPIの実績は計画どおりの成果が出ており、7年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

12	当初	事項	鶏低タンパク質飼料給与体系確立試験費							予算主管課	畜産課
	事業概要	配合飼料価格が高止まりする中、飼料コスト削減による本県養鶏農家の経営安定化を図るため、粗タンパク質含量を低減させた安価な低タンパク質飼料の給与体系の確立に取り組む。								始期	
										終期	
	K P I	目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	0 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
		実績値	%	実績値	0 %	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック/フロー	フロー	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	6,460 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	千円	決算額	6,460 千円	決算額	千円	決算額	千円	
	6 年 度	要因分析	要因								
総括											
見直し方向性		維持	6年度のKPIの実績は計画どおりの成果が出ており、7年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

13	当初	事項	県産大径材利用拡大事業費							予算主管課	林業政策課
	事業概要	県産材の新たな需要の拡大を図るため、県産材によるツーバイフォー工法部材の開発を行う。								始期	2022
										終期	
	K P I	ツーバイフォー工法部材の生産量									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	8000 m ³	目標値	10000 m ³	目標値	0 m ³	目標値	0 m ³
		実績値	7519 m ³	実績値	9037 m ³	実績値	7992 m ³	実績値	m ³	実績値	m ³
		ストック /フロー	フロー	達成率	113 %	達成率	79.9 %	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計 予算額	2,000 千円	最終現計 予算額	1,000 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円
	決算額			1,900 千円	決算額	967 千円	決算額	千円	決算額	千円	
	6 年度	要因分析	<p>要因 県産材によるツーバイフォー工法部材の開発が完了したものの、住宅着工数の減少により令和6年度実績が伸び悩み、未達成となった。</p> <p>総括 県産材ツーバイフォー工法部材の開発が完了したことにより、県内業者のツーバイフォー工法部材生産量が着実に増加しており、開発した新技術が実社会で活用されており、KGI実績値の向上に好影響を与えることができた。令和6年度以降は、さらに新技術の開発に取り組むこととしている。</p>								
		見直し方向性									

14	当初	事項	県産内装材利用技術開発事業費							予算主管課	林業政策課
	事業概要	県産材を利用した内装材の利用拡大を図るため、木の香りが持続する保護塗料の開発を行う。								始期	2024
										終期	2026
	K P I	木材の需要拡大に関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	0 %	目標値	100 %	目標値	0 %	目標値	0 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック /フロー	ストック	達成率	%	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	1,200 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円
	決算額			千円	決算額	1,200 千円	決算額	千円	決算額	千円	
	6 年度	要因分析	<p>要因</p> <p>総括</p>								
		見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績は想定どおりの成果が出ており、7年度は研究2年目に入ることから、別事項である「林業試験研究費」と統合し、継続することとする。7年度以降、事業対象や手法について見直しは予定していない。							

15	12月 補正	事 項	林業研究センター試験研究機器整備事業費						予算主管課	林業政策課	
	事 業 概 要	優良な種苗生産の効率化や精度の向上を図るため、品種判別や親子鑑定分析に必要な機器を整備する。						始期	2010		
								終期	2025		
	K P I	機器整備進捗率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	%	目標値	%
		実績値	%	実績値	100 %	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック /フロー	フロー	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
	コ ス ト		最終現計 予算額	742 千円	最終現計 予算額	3,541 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	475 千円	決算額	3,190 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年 度	要 因 分 析	要因									
		総括									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績は想定どおりの成果が出ており、7年度以降も継続するならば、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

16	当 初,12 月補正	事 項	水産試験分析機器等整備費						予算主管課	水産課	
	事 業 概 要	魚病被害の低減を図るため、魚病の発生予測や適切な投薬指導に必要な機器を整備する。						始期	2013		
								終期	2024		
	K P I	機器整備進捗率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	%	目標値	%
		実績値	100 %	実績値	100 %	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック /フロー	フロー	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
	コ ス ト		最終現計 予算額	34,448 千円	最終現計 予算額	11,382 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	27,449 千円	決算額	10,588 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年 度	要 因 分 析	要因 終期延長 (R6→R7) R7目標値 100%									
		総括									
	見直し方向性	維持	6年度は、予算計上した機器を全て整備できたため、KPIの向上の余地はないが、来年度以降も必要な機器の整備を実施するため、見直しは想定していない。								

17	当初	事項	アコヤガイ異常死対策事業費						予算主管課	水産課	
	事業概要	アコヤガイの異常死原因が判明した中で、いまだ抜本的な対策は確立されていないため、被害軽減対策の検討強化及び強い貝づくりを加速化させることで、真珠・真珠母貝生産量日本一を奪還する。							始期	2023	
									終期	2025	
	K P I	稚貝保有数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	1800 万貝	目標値	2100 万貝	目標値	2400 万貝	目標値	万貝
		実績値	1545 万貝	実績値	2281 万貝	実績値	2055 万貝	実績値	万貝	実績値	万貝
		ストック/フロー	フロー	達成率	126.72 %	達成率	97.9 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	17,208 千円	最終現計 予算額	15,592 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	16,328 千円	決算額	13,662 千円	決算額	千円	決算額	千円	
	6 年度	要因分析	<p>要因 民間の種苗生産機関の生産不調により、稚貝の供給不足が生じた可能性がある。なお、県栽培資源研究所による緊急生産や県外からの種苗購入により、養殖現場に大きな混乱は生じていない。</p>								
			<p>総括</p>								
		見直し方向性	維持	<p>依然として、アコヤガイの異常死は続いているほか、民間の種苗生産機関の生産不調もあり、6年度の目標達成率はやや下回っているものの、事業の進捗状況を踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法の見直しは想定していない。</p>							

18	当初	事項	媛スマ養殖低コスト・効率化技術開発試験費						予算主管課	水産課	
	事業概要	スマ養殖産業化の最大のネックとなっている種苗生産期の配合飼料への早期餌付け方法の確立と、スマ養殖に最適な配合飼料の開発を重点的に進め、低労力化や生残率の向上による生産コストの低減と効率化を図る技術開発を行い、媛スマ養殖の産業化を実現する。							始期	2023	
									終期	2027	
	K P I	媛スマ養殖の産業化に向けた技術開発率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
		実績値	%	実績値	100 %	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック/フロー	フロー	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	10,488 千円	最終現計 予算額	10,847 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	10,271 千円	決算額	10,675 千円	決算額	千円	決算額	千円	
	6 年度	要因分析	<p>要因</p>								
			<p>総括</p>								
		見直し方向性	維持	<p>媛スマ養殖の課題は、飼料価格の高騰と種苗配付後の低い生残率であり、本事業では、生残率の向上が期待される大型種苗の安定的・効率的な生産方法や飼料コスト削減の技術開発を進めることにより、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法の見直しは想定していない。</p>							

19	当初	事項	養魚用飼料原料新規開発事業費							予算主管課	水産課
	事業概要	飼料の主原料である魚粉価格の高騰により、飼料価格が上昇しているため、水産研究センターにおいて、近年、栄養的特性や大量生産の可能性が注目されている昆虫を利用した新たな飼料を開発し、飼料コストの削減を図る。								始期	2024
										終期	2026
	KPI	魚粉代替原料を使った飼料開発進捗率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	0 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック/フロー	フロー	達成率	%	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	2,682 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	千円	決算額	1,934 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年度	要因分析	要因									
		総括									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績は想定どおりの成果が出ており、7年度もKPIは目標を達成すると考えられることから、予算の見直しは想定していない。								

20	当初	事項	ノリ漁場生産力向上試験費							予算主管課	水産課
	事業概要	漁場生産力の向上を図るため、クロノリを指標とした安価で持続性のある施肥剤を開発するほか、養殖資材である支柱を利用した簡便で安価な栄養塩供給技術を開発する。								始期	2024
										終期	2026
	KPI	目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	%	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	100 %	実績値	%	実績値	%
		ストック/フロー	フロー	達成率	%	達成率	100 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	2,706 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	千円	決算額	2,281 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年度	要因分析	要因									
		総括									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績は想定どおりの成果が出ており、7年度もKPIは目標を達成すると考えられることから、予算の見直しは想定していない。								

21	当初	事項	広域連携型農林水産研究開発事業費							予算主管課	林業政策課
	事業概要	国等の提案公募型研究資金や企業等の委託資金を活用して、産学官の広域的な連携強化を図り、先端技術等による生産、流通、加工等の現場に密着した質の高い試験研究を推進する。								始期	2005
										終期	
	K P I	採択された提案公募型研究資金事業に関して、目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %
		実績値	85 %	実績値	98 %	実績値	96.3 %	実績値	%	実績値	%
		ストップ/フロー	フロー	達成率	108.9 %	達成率	107 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	579 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	千円	決算額	579 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年 度	要因分析	要因									
		総括									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績はほぼ想定どおりの成果がでており、7年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

22	当初	事項	広域連携型農林水産研究開発事業費							予算主管課	水産課
	事業概要	国等の提案公募型研究資金や企業等の委託資金を活用して、産学官の広域的な連携強化を図り、先端技術等による生産、流通、加工等の現場に密着した質の高い試験研究を推進する。								始期	2006
										終期	
	K P I	採択された提案公募型研究資金事業に関して、目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %
		実績値	85 %	実績値	98 %	実績値	96.3 %	実績値	%	実績値	%
		ストップ/フロー	フロー	達成率	108.9 %	達成率	107 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	14,200 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	千円	決算額	12,900 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年 度	要因分析	要因									
		総括									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績はほぼ想定どおりの成果が出ており、7年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								